



栗原明子さんと 南方特別留学生

—広島文理科大学の近くで起きた被爆の絶望からの光と絆—

1945年8月6日、広島で被爆した少女・栗原明子さんは、父の消息を求めて惨憺たる広島市内をさまよいました。そして、途方にくれたころ、広島文理科大学（現在の広島大学東千田キャンパス）の近くで被爆と被災を生き延びた南方特別留学生たちと出会い、ともに過ごすことになりました。兵器による被爆体験は無いほうが絶対に良いですが、この出会いは、残虐な状況のなかで一筋の光を生み、深い絆を紡ぎました。

今回の市民講座では、このことをテーマにした絵本『明子』（原作・絵：栗原エミ）の紹介、映像作品『MEIKO』（製作：「原爆ドームとヒロシマ」実行委員会）の上映と、研究者による報告を行います。また、立命館大学国際平和ミュージアムの特別なご協力を得て、同館所蔵の永原敏夫氏の遺品を限定展示いたします。

日時

2025年 **3**月**1**日(土) 13:00 開場 **13:30** 開始 (17:00終了予定)

会場

広島大学 原爆放射線医科学研究所
放射線先端医学実験棟5階 講堂

プログラム

1. 映像作品紹介 出山知樹(映像作品製作／NHK神戸放送局)
2. 映像作品上映 『MEIKO』（40分／英語字幕あり）

休憩

3. 研究報告

- ①大月功雄(立命館大学国際平和ミュージアム)
立命館大学国際平和ミュージアム所蔵永原敏夫氏遺品について(仮)
- ②平野裕次(広島大学国際室)
南方特別留学生と広島
- ③土肥幸美(広島平和記念資料館)
南方特別留学生に関連する視覚的資料について
- ④久保田明子(広島大学原爆放射線医科学研究所)
栗原明子さんから導かれる広島の医学史

事前申し込み制

QRコード



QRコードから
お申し込みください。

特別限定展示

永原敏夫氏遺品

(立命館大学国際平和ミュージアム所蔵資料)

永原敏夫氏は、当時、広島文理科大学の留学生担当主任の英語学教授で、留学生寮(興南寮)の学監であった。あの日の早朝、留学生と寮から大学に移動中に被爆し、明治橋で倒れ、その後の一斉炎上で焼死した。捜索の際、このベルトのバックルで「永原先生」と当人を確認する根拠となったと言う。

※会場入場の注意…土曜日開催のため、会場に入る出入口の場所や時間が限られています。ご注意ください。

※交通案内(広島大学ホームページ「交通アクセス」もご参照ください)

【広島駅南口バス乗り場④】広電バス、広島バス、広交バス(まちのわループ右回り)にて「**大学病院前**」下車⇒会場まで徒歩10分程度
【紙屋町方面より】広島電鉄バス【⑦系統】にて「**大学病院南門**」下車⇒徒歩5分程度

入場無料

主催

広島大学原爆放射線医科学研究所

協力

立命館大学国際平和ミュージアム

企画・製作 原爆放射線医科学研究所附属被ばく資料調査解析部

問い合わせ TEL 082-257-5877 原爆放射線医科学研究所附属被ばく資料調査解析部

会場案内

霞キャンパスマップ

※建物番号は**29**です。



※会場への入り方

- ①原爆放射線医科学研究所（原医研）（建物番号**28**）の玄関を目指してください。
 →【大学病院前】から… ルートでお越しください。
 （途中の「共用棟1」（建物番号**25**）から建物の中になります。）
 →【大学病院南門】から…南門から入り、玄関にお越しください。
- ②玄関より研究棟（建物番号**28**）のドアに入り、男子トイレ横の右への通路に入ってください。道に沿って進むと、エレベーターがあります。
- ③エレベーターで5階にお越しください。